

むかしむかし、

占いやお灸治療などを熱心にしてくれる
大変親切な人が住んでいました。

彼は、農作業中でも、

頼むといやな顔もせず飛んできて、

治療をしにきてくれました。



とても一生懸命な人で、
一刻も早く治療するために、
足を洗っても片足しか洗わないままで
他の人の世話にかけつけてくれました。



彼が亡くなると、

村人たちはその姿を

お地藏様にしてまつろうというて、

立派なお地藏様を建ててあげました。

彼が片足を洗わずに

世のために尽くしたので、

「足洗わず地藏」と呼ばれました。

